

事務局:〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学 経済学部大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL & FAX 03-5421-5639

会費振込口座:「経営哲学学会」00160-9-573076

第20回 経営哲学学会 全国大会のご案内

日時 平成15年9月12日(金)、13日(土)、14日(日)
場所 中京大学 (名古屋八事キャンパス)
統一論題 「経営哲学は死んだか?
—日本企業の経営実践の基層を問う—」

大会開催校からのご挨拶

中京大学 中條 秀治

桜の季節がまた巡ってきました。各地から花便りが伝えられるなか、桜のつぼみの開花にまつわる面白い話を聞きました。今年は早咲きだそうです。暖冬だから早咲きという図式ではないのだそうです。桜のつぼみが開花するためには、寒さが必要なのだそうです。膨らみ始めたつぼみは冬の寒さ(摂氏10度以下)で目をさまし、春の暖かさを待って開花を始めるらしいのです。厳しい寒さこそが必要で、その覚醒の後に暖かさを感じることで早咲きの桜となるというのです。年中暖かな国に桜を移植したところ、つぼみは目覚めることなく眠り続け、花を開かずとはなかったといえます。

日本の経営哲学が人々にめでられるほどに花開いたという記憶はありません。経営哲学は眠ったままなのでしょうか。あるいはどこかで人知れず花開いているのでしょうか。あるいは死んでしまっているのでしょうか。

経営哲学が開花するためには、まずは経営哲学の核となるつぼみが必要だと考えます。そして、桜のつぼみの開花が冬の厳しさを必要とするように、経営哲学の核となるそのつぼみも厳しさの中で身を震わせるような経験があって始めて目覚め、やがて開花するものかもしれません。

わずか十数年あまり前、日本型経営はJapan as No.1と言われ賞賛的でありました。バブル経済の崩壊以降、平成デフレ不況と呼ばれる現在、日本の経営者に垣間見えた傲慢ともいえるほどのかつての自信はどこかへ吹き飛び、日本的経営を支えた屋台骨がゆすぶられ骨抜きになるにまかされています。日本型経営を支えた新規一括採用、終身雇用、年功賃金・年功昇進、手厚い福利厚生などは急速に崩れつつあります。経営における情報化・国際化が避けて通れず、ポーダレス経済の現実を否応なく受け入れざるを得ないとしても、安易なアメリカ型経営への有無を言わさぬ舵取りで日本企業の経営は健全なものとなるのでしょうか。エンロンやワールドコムの不祥事を持ち出すまでもなく、アメリカ型経営も最善というわけにはいきません。

このような日本企業の経営実践を目の当たりにして、われわれは日本企業における「経営哲学の危機」を感じ取り、「経営哲学は死んだか?」と敢えて問いたいと思います。

経営哲学の存在意義が等閑視される世相が長く続いたように思われます。それは右肩上がりの小春日和の経済状況のなか、日本の経営哲学が目覚めることなく眠り続けていたからかもしれません。企業経営にとって、平成不況はかつて経験したことのない厳しさです。桜のつぼみの目覚めを冬の厳しさがうながすように、厳冬にたとえられる現在の経営環境は日本の経営哲学の核となるものの目覚めの契機となるとも考えられます。厳しい状況の中から日本の経営哲学の核となるものの目覚めを実感できれば、「災い転じて福となす」ということになるのではないのでしょうか。

「温故知新」は古来よりの知恵です。日本企業の経営実践の基層を改めて問い直すことで、日本の経営哲学の核となるものが見えてくるはずです。

ところで中京大学が位置する中京地区の企業といえば世界のトヨタが当然思い浮かぶことでしょう。そこで記念講演は、「中堅管理者の見たTOYOTA WAY(トヨタの経営哲学)」と題し、トヨタマンでありかつ中京大学大学院ビジネスイノベーション研究科の専任教授でもある寺田浩祐先生が身を持って体験されたトヨタの経営哲学について語っていただくと考えております。司会兼対談者には、トヨタの生産管理を長らく研究されている中京大学学長の小川英次先生をお願いしております。中身の濃い話が聞けると思いますので、ご期待ください。

中京大学での全国大会が盛会となることを関係者一同期待しております。学会会員の皆様の積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

【プログラム概要】

プログラムの中心は4つの「ブル・セッション」(討論型セッション)と記念講演です。ブル・セッションではフロアの会員各位も積極的にセッションに参加できるような工夫を考えております。

I ブル・セッション (討論者については、確定者のみ記載)

テーマ1 日本の経営哲学は死んだか?

○第一セッション 「日本の経営哲学は死んだか?」

問題提起者 村田晴夫 討論者

司会 厚東偉介、小笠原英司

○第二セッション 「日本学と経営哲学の基層」

問題提起者 三井 泉 討論者

司会 日置弘一郎、澤野雅彦

テーマ2 日本の経営哲学ー日本型経営を未来に問い直すー

○第三セッション 「日本の経営哲学、そして世界の経営哲学」

問題提起者 高 巖 討論者 金山権、石井康彦

司会 飫富順久、村上伸一

○第四セッション 「“もう一つの”グローバリズムを探す」

問題提起者 村山元英 討論者 G・クラーク、馬越恵美子

司会 増田茂樹、佐々木恒男

II 講演「中堅管理者の見たTOYOTA WAY(トヨタの経営哲学)」(仮題)

講演者 寺田浩祐

司会 小川英次

1. 全国大会自由論題報告者の募集

全国大会 報告者募集！！

2003年9月13日(土)、9月14日(日)に中京大学で開催される第20回全国大会の自由論題報告者を募集します。

報告を希望される方は、必要事項を記入の上、5月17日土曜日(必着)までに

①郵送、②FAXまたは③E-MAILでご連絡ください。

※ 必要事項

1)ご氏名 2)ご連絡先 3)ご所属 4)報告テーマ 5)報告要旨(1000字程度)

※ 同一内容の連続的な報告はご遠慮ください。

※ 大学院生など若い方の応募を歓迎いたします。

【連絡先】〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37明治学院大学 経済学部大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL & FAX 03-5421-5639

2. 関東部会報告

先日開催された関東部会の報告です。今回の会報では司会を務められた先生方からのコメントも合わせて掲載致しました。

日時：平成15年3月15日(土) 午後2時—午後5時

場所：早稲田大学9号館5階 商学部大会議室

※報告者とテーマは以下の通り

(1)小野琢(明治学院大学大学院)

報告テーマ「企業と社会—経営自主体的アプローチにおける企業の社会的応答」
《紹介とコメント：三井 泉(帝塚山大学)》

本報告の目的は、山城章の「経営自主体論」に基づくアプローチから企業の社会的応答の原理を論ずることにあり、未だ試論の域にあるものの、経営存在の本質に迫ろうとする意欲的な報告であった。特に、近年の経営学では扱われることが少なくなった経営の「主体」という問題を取り上げ、山城章、山本安次郎、高田薫など、先学の研究を踏まえて、現代の問題に取り組もうとした点は十分に評価しうる。荒削りなところはあるが、経営哲学学会にふさわしい研究課題であり、今後の展開が期待される。フロアーの議論も活発であった。

(2) 藤原七重(敬愛大学)

報告テーマ「情報化時代における個人情報保護と企業の競争優位」

《紹介とコメント: 中條秀治(中京大学)》

「個人情報とは消費者ローンやクレジットに関する情報」であり、藤原氏が報告で取り上げているのは、いわゆる消費者金融における「個人情報機関」の意義である。

藤原氏の報告目的は、「個人情報収集と利用がもたらすメリット」と「個人情報を収集し、利用する組織とそのビジネスが社会で受け入れられるための要件」を明らかにすることにある。報告では、個人情報情報の定義、収集される個人情報の内容、個人情報機関の役割、機関類型、さらにアメリカにおける個人情報機関の発展史およびその社会的ないし経済的意義などについて言及された。

報告者の立場は、個人情報機関の発展は個人の信用リスクの適切な判断に不可欠のものであり、それは与信業者の貸出リスクの判断の適正化あるいは貸出条件の個別対応の可能性にも結びついており、貸し手・借り手の双方にメリットをもたらすというものである。藤原氏は、「個人情報機関は、消費者信用サービスの礎である」とその意義を力説する一方で、「プライバシー問題にも配慮しなくてはならない」とも主張する。今後の情報化社会の進展を考えれば、個人情報機関とその活動にまつわるプライバシー問題は今後さらに注目されるものと思われる。

3. 経営哲学学会ホームページについて

学会事務局では、現在学会ホームページの移転作業をしております(下参照)。

新URL: <http://jamp.ne.jp/> ←←← (旧URL: <http://www.keitetsu.jp/>)

(移転作業が完全に終了するまで新URLは閲覧出来ません。)

右記試行版URLの方にアクセスしてみてください。 <http://jamp.server.ne.jp/>)

● 主な改定点は以下の通り。

- * オンラインで入会申し込みができる(入会承認は従来通り常任理事会の議を経る)。
- * 従来より更新がしやすくなる(専用サーバーのため)。
- * 学会員の出版物(著書)を紹介するコーナーを新設します。ご紹介・ご推薦をお願いします。
- * 年次大会、部会の情報もホームページ内に掲載する予定です。

4. 会員異動

新入会員 小濱純(桃山学院大学大学院) 柳沼江美(明治学院大学大学院)

退会会員 大橋昭一(大阪明浄大学)

5. 会報の発送について

学会経費節減のため、今回の会報より発送に「クロネコメール便」を利用するようにしました。

【参考】料金とサイズ: 3辺合計70センチ以内、50gで80円。「メール便」の利用には、「定形外でも安価」「袋詰め・発送作業が効率的」「訪問集荷が利用可能」等のメリットがあります。

経営哲学学会事務局

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学経済学部 大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp TEL&FAX 03-5421-5639